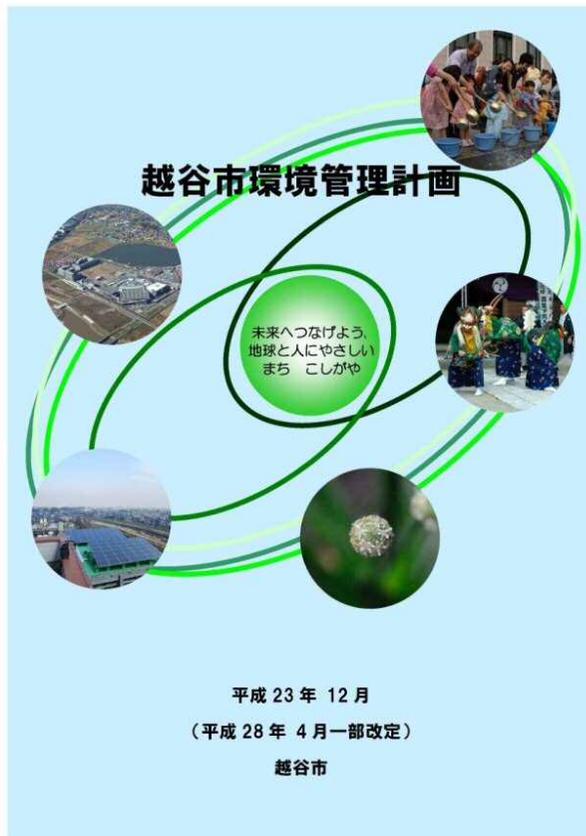


# 越谷市の環境施策の取組について

令和3年7月5日

令和3年度 第1回 越谷市環境審議会

# これまでの取組（越谷市の環境関連計画）



期間：平成23年度（2011年度）  
～令和2年度（2020年度）



期間：平成23年度（2011年度）  
～令和2年度（2020年度）

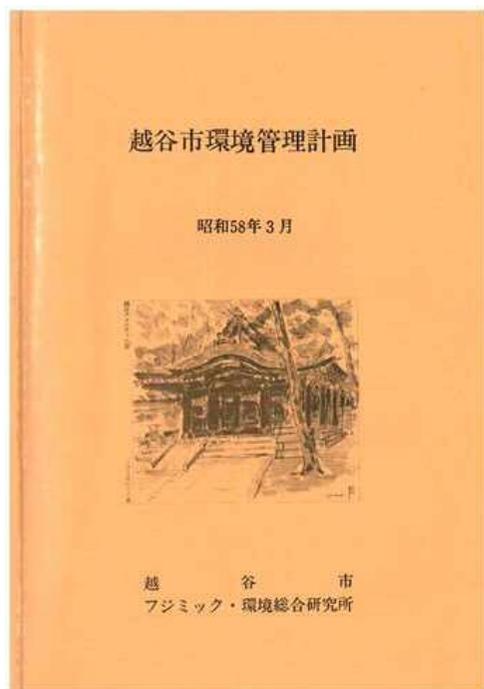
# Part I

## 環境管理計画って何ですか？

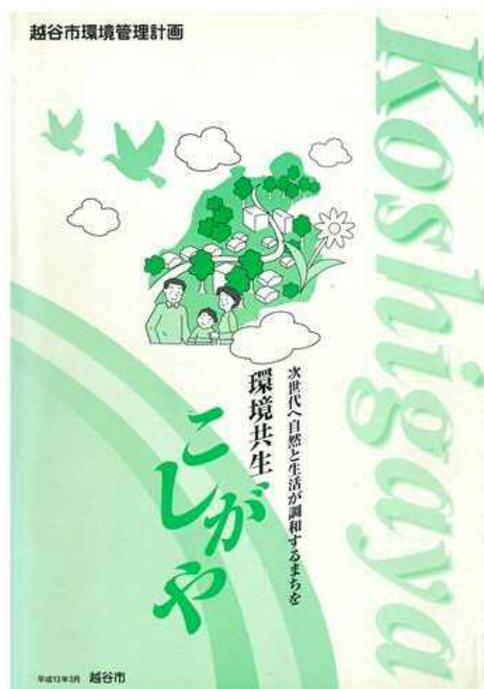


環境の保全及び創造に関する施策を  
総合的かつ計画的に推進するための基本計画です。

# これまでに策定された越谷市の環境管理計画



昭和58年  
(1983年)



平成13年  
(2001年)



平成23年  
(2011年)



令和3年  
(2021年)

環境・社会情勢の変化に対応するため計画を改定

# 前回計画からの国内外の環境対策に関する主な変化

- 2011年(平成23年) 東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故発生
- 2012年(平成24年) 小型家電リサイクル法制定、生物多様性国家戦略2012-2020閣議決定
- 2014年(平成26年) 第四次エネルギー基本計画閣議決定
- 2015年(平成27年) 国連サミット「SDGs」採択、気候変動枠組条約締約国会議「パリ協定」採択
- 2016年(平成28年) 地球温暖化対策計画閣議決定
- 2018年(平成30年) 第五次環境基本計画・第四次循環型社会形成推進基本計画閣議決定、気候変動適応法制定、気候変動適応計画閣議決定、第五次エネルギー基本計画閣議決定
- 2019年(令和元年) 食品ロス削減推進法制定、
- 2020年(令和2年) 菅首相「2050年脱炭素社会実現宣言」

# 変化① SDGsが世界共通の合言葉に

世界の全ての人たちが  
幸せになるために  
2030年までに取り組  
んでいく17の目標



越谷市も、そして  
あなた自身も  
取り組む一員です



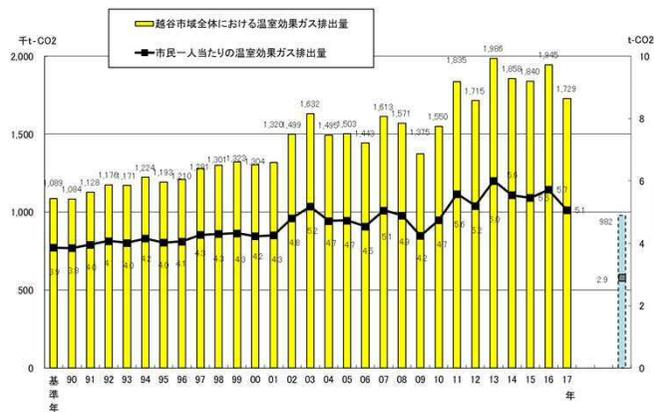
# 変化② 気候変動対策と影響への適応

温室効果ガスを  
**減らす**  
かんわ  
**緩和策**

## 気候変動対策

温暖化による  
悪影響に  
**備える**  
てきおう  
**適応策**

温室効果ガスの排出量が増加



気温が上昇・  
大雨の頻度が  
増加

健康被害(熱中症)



浸水被害



# その他の変化など

海洋プラスチック・  
食品ロス問題



生物多様性の危機



人口減少・超高齢社会

超スマート社会の到来

Society 5.0



ESG投資の拡大



# 越谷市における環境課題

温室効果ガス排出量の削減目標が未達成

特に家庭部門の増加

市内の再生可能エネルギーだけでエネルギー需要を満たすことは困難

再生可能エネルギー電力への転換が進んでいない

今やれる施策や技術だけでは大幅な削減が困難

適応の認知度が低い

市域の影響やその規模が未把握

適応に関する市内の連携体制が確立されていない

ごみ総排出量の更なる減量が必要

リサイクル率の目標未達成

超高齢社会への対応

プラスチックごみによる海洋汚染

生きものが絶滅又は減少

生息・生育地の環境が劣化

光化学オキシダント濃度が環境基準を超過

協働の仕組みはあるが参加はごく一部に限定

生物多様性が普及、理解されていない

生息・生育地が分断・消失

生活排水による河川汚濁の発生

消費力は大きい  
がエシカル消費に  
転換できていない

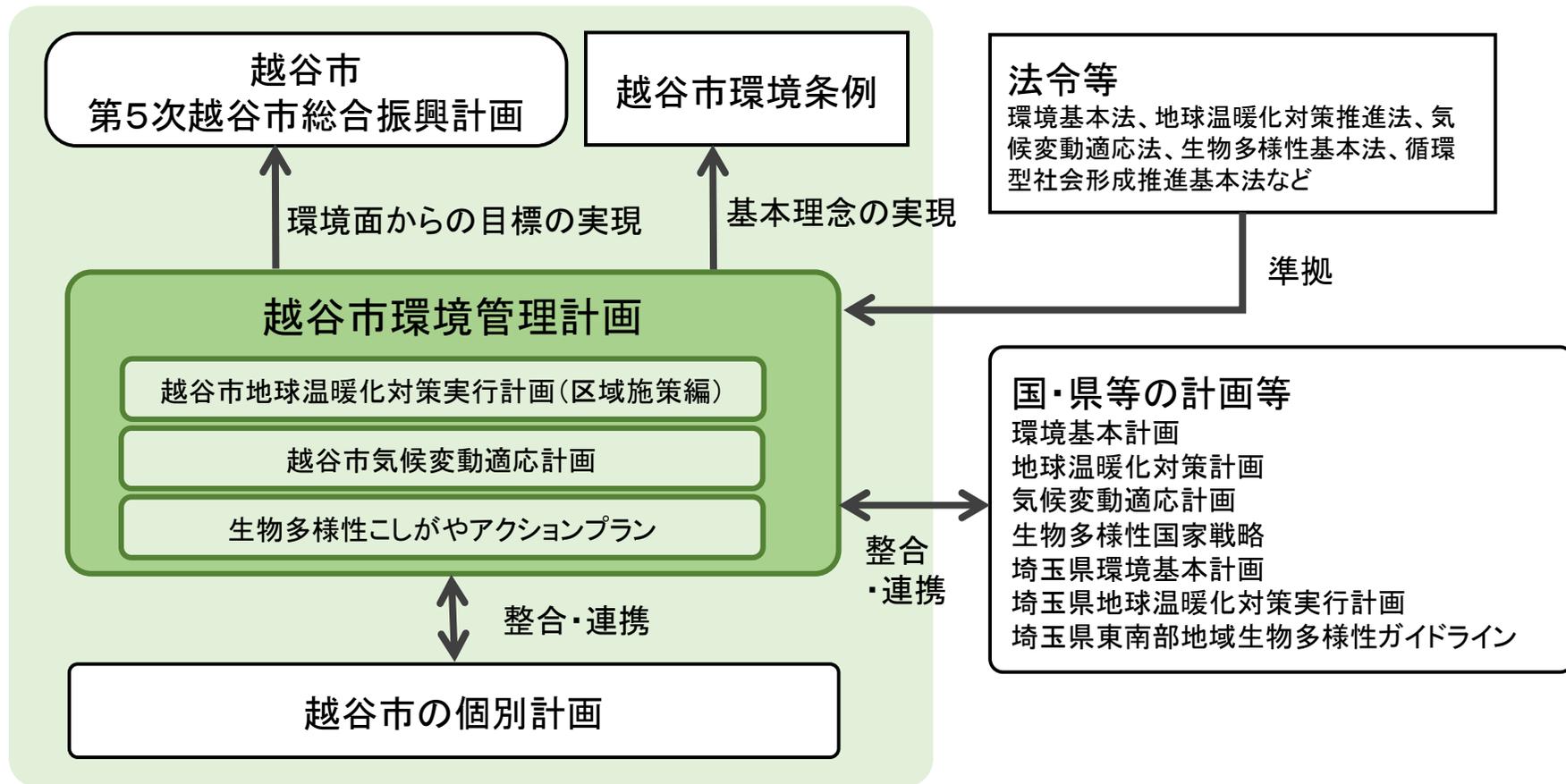
Part  
2

今回の計画のポイントは？



# 計画の位置づけ

3つの計画を  
含んでいるよ

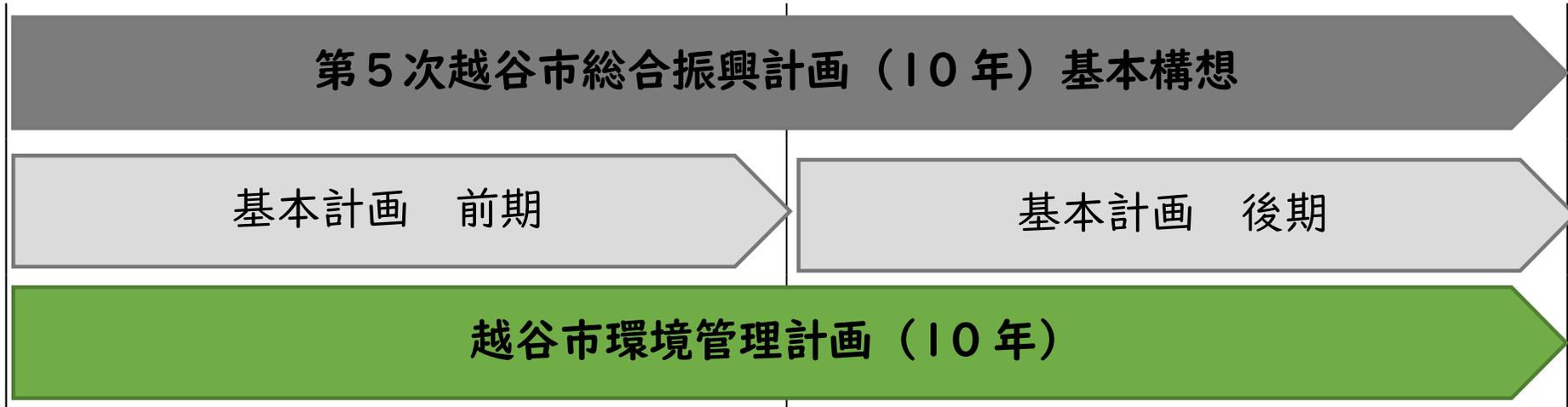


# 計画期間

令和3年度  
(2021年度)

令和8年度  
(2026年度)

令和12年度  
(2030年度)



▲見直し時期

# 望ましい環境像

未来の越谷市民  
に対して

豊かな環境を  
保全・創造する  
ため

全ての人が  
責任を持って  
考え、行動する

みんなで創ろう  
越谷の豊かな環境と未来

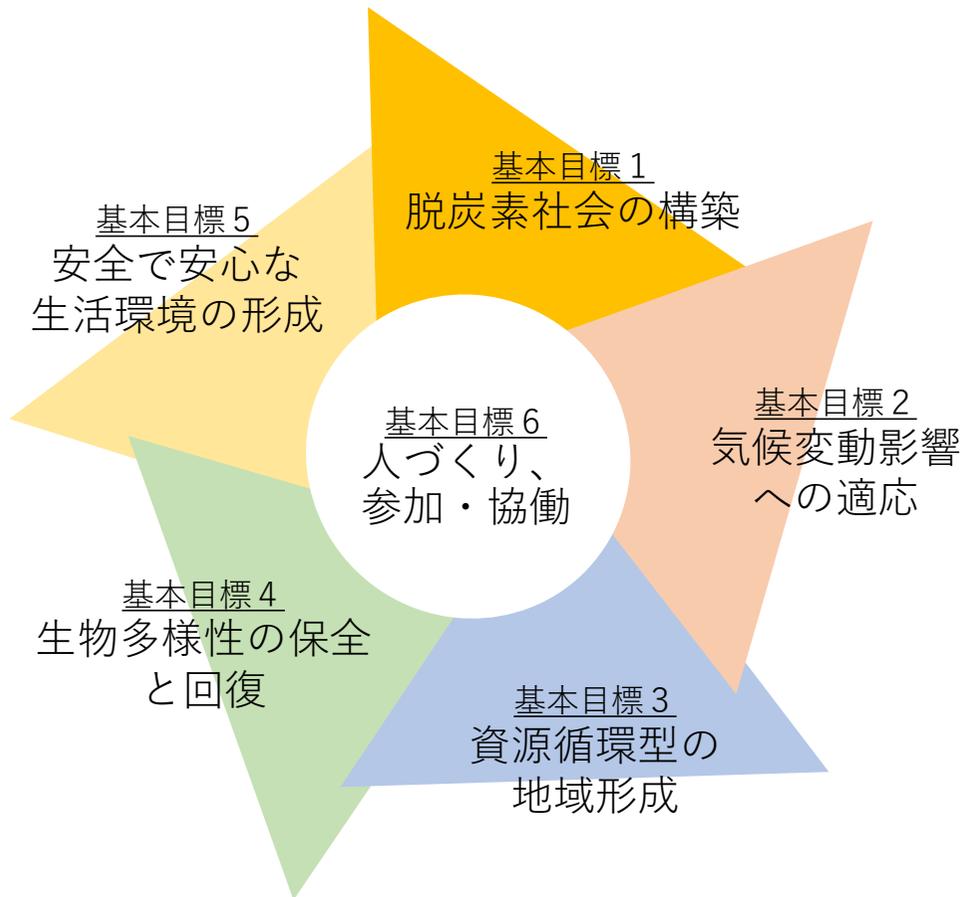


# 今回の計画のポイント

## 3つの基本理念

- 環境面から社会・経済課題の同時解決
- 行政・市民・事業者の協働
- 地域資源の持続的な活用

# 施策の展開方向



## 基本目標1 脱炭素社会の構築

地球温暖化、省エネルギー、再生可能エネルギー、交通など

## 基本目標2 気候変動影響への適応

気候変動影響、ヒートアイランド現象、防災など

## 基本目標3 資源循環型の地域形成

ごみ減量、廃棄物処理、資源リサイクル、地産地消など

## 基本目標4 生物多様性の保全と回復

緑、生態系、生物多様性、公園緑地、環境保全型農業など

## 基本目標5 安全で安心な生活環境の形成

大気、水質、騒音・振動、悪臭・土壌等、景観、美化活動など

## 基本目標6 人づくり、参加・協働

環境教育、環境活動、環境配慮行動など

Part  
3

今回の計画では  
どんなことをするの？



# 基本目標Ⅰ 脱炭素社会の構築

## 【取組の方向性】

- 1-1 エネルギーの効率的な利用
- 1-2 再生可能エネルギーの導入拡大
- 1-3 再生可能エネルギー電力への転換
- 1-4 二酸化炭素吸収源の拡大
- 1-5 都市基盤と交通ネットワークの形成
- 1-6 ごみの発生抑制の推進
- 1-7 革新的な取組の探求



蓄電池（消防本庁舎）



太陽光パネル（保健所）

# 基本目標2 気候変動影響への適応

## 【取組の方向性】

- 2-1 気候変動適応の理解促進
- 2-2 気候変動適応の推進に係る庁内連携の構築
- 2-3 気候変動に対する適応力の向上
  - 暑熱対策の推進
  - 水害対策の推進
  - 渇水対策の推進
  - 自然生態系対策の推進
  - 農業対策の推進
  - 気候変動適応策の活用

**熱中症に注意** しましよ

**直射日光は避けましょ**

- ① 暑い日は決して無理をしない
- ② 日陰を選んで歩く（日傘・帽子の利
- ③ 涼しい場所に避難する

**こまめに水分を補給しましよ**

- ① のどが渇く前に水分補給
- ② アルコールでの水分補給はNG！（コーヒーや紅茶などのカフェインもNG！）
- ③ 大量に汗をかいたときは塩分も忘れずに

**体調管理に気をつけましょ**

- ① 睡眠を十分にとりましょ
- ② 食事は1日3食しっかりとりましょ
- ③ 「おかしい!？」と思ったら病院へ

暑さ指数を確認してみませんか？  
こちらの二次元バーコードにアクセスすると現在の暑さ指数を知ることが出来ます！  
出典：環境省熱中症予防情報サイト [http://www.wbgt.env.go.jp/wbgt\\_data.php](http://www.wbgt.env.go.jp/wbgt_data.php)

越谷市

保存版

越谷市  
洪水ハザードマップ

2008年7月

## 基本目標3 資源循環型の地域形成

### 【取組の方向性】

- 3-1 市民・事業者との協働による資源循環の推進
- 3-2 排出事業者等による主体的なごみ減量・資源化の促進
- 3-3 新たなごみ収集・処理システムの構築
- 3-4 産業廃棄物対策の推進
- 3-5 農産物や食品等の地域内循環の推進



# 基本目標4 生物多様性の保全と回復

## 【取組の方向性】

- 4-1 生きものの減少防止と回復
- 4-2 生息環境の維持と回復
- 4-3 生きものが暮らす環境の保全
- 4-4 グリーンインフラの整備と活用
- 4-5 生物多様性の普及の推進



コシガヤホシクサ



越谷ふるさと米圃場



(仮) 平方自然観察公園

# 基本目標5 安全で安心な生活環境の形成

## 【取組の方向性】

### 5-1 生活環境の保全

- 大気環境の保全
- 水質汚濁の防止
- 騒音・振動
- 化学物質等
- 悪臭・土壌等

### 5-2 都市景観の形成と歴史ある景観の保全

### 5-3 災害に柔軟に対応できるまちづくりの推進



一般環境大気測定局



# 基本目標6 人づくり、参加・協働

【取組の方向性】

6-1 環境・SDGs教育の推進

6-2 環境・SDGs活動の推進

6-3 環境・SDGsに配慮した消費行動の喚起



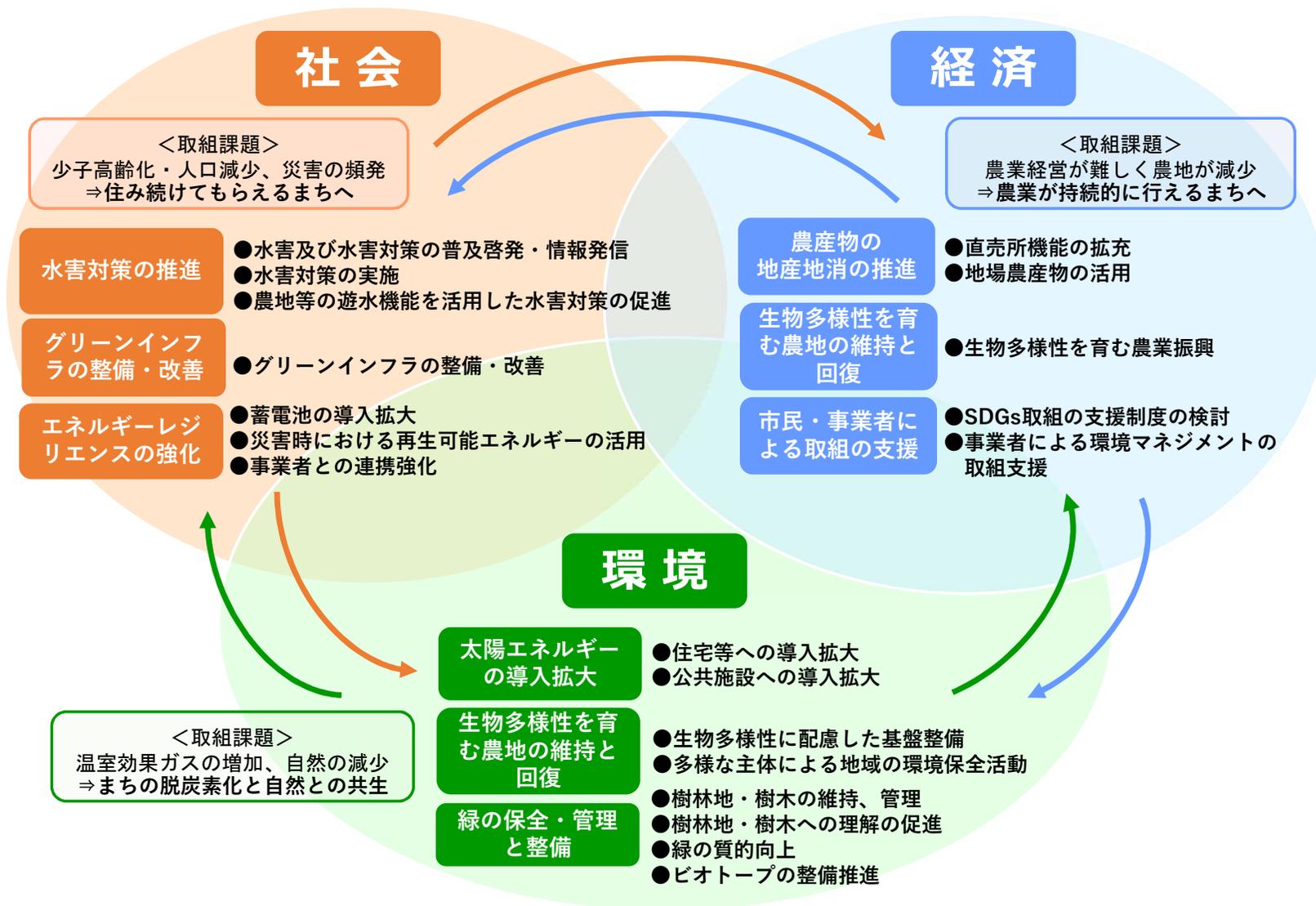
# 推進プロジェクト



## 本計画の推進プロジェクト分野

「気候変動」×「防災」×「エネルギー」

# 推進プロジェクトのモデル図



# 前回審議会における意見とその取組み状況

前回 令和3年2月8日開催

- 議 事
- (1) 越谷市環境管理計画の改定について
    - ① 前回会議意見等を踏まえた対応について
    - ② 検討事項
      - ・ パブリックコメントとその対応方針
      - ・ 越谷市環境管理計画（案）
      - ・ 越谷市環境管理計画 概要版（案）
  - (2) その他

# 答申式（令和3年2月18日）



令和3年(2021年)2月18日

越谷市長 高橋 努 様

越谷市環境審議会  
会長 小松 登志子



越谷市環境管理計画の策定について(答申)

令和元年(2019年)6月25日付け越環政第537号において諮問のありました越谷市環境管理計画の策定について、別添計画(案)を添えて、次のとおり答申します。

## 答 申

令和元年(2019年)6月25日付け越環政第537号にて諮問のありました、越谷市環境管理計画の策定について、本審議会に環境に関わる様々な分野の専門家で構成した特別部会を設け、部会を7回、審議会を5回開催し、審議を重ねてまいりました。

その成果として、本審議会は、審議会としての意見を集約し、望ましい環境像を「みんなで創ろう 越谷の豊かな環境と未来」とする、「越谷市環境管理計画(案)」を添えて、次のとおり答申します。

### 記

#### 1 計画策定の必要性について

昨今の環境課題は、気候変動、生物多様性などの問題が深刻化し、これまでの施策の継続では対応できなくなっている上、社会・経済の課題とも密接に関連し複雑化しています。

こうした状況に対応するために、国・県の計画や本市の他計画との整合性を考慮しつつ、SDGs(持続可能な開発目標)の考え方を活用し、社会・経済課題の同時解決も図りながら、環境施策を総合的、体系的に推進する、新たな越谷市環境管理計画を策定する必要があると考えます。

#### 2 計画策定に当たっての基本的な考え方について

計画の策定に当たっては、本市に関する環境状況について、課題を的確に把握・整理するとともに、現行計画の指標・施策についての評価を行った上で、施策の方向性を検討する必要があると考えました。

さらに、総合的に施策を推進するために、地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく「地球温暖化対策実行計画(区域施策編)」、気候変動適応法に基づく「地域気候変動適応計画」、埼玉県東部地域生物多様性ガイドラインに基づく「生物多様性こしがやアクションプラン」を内包した施策体系について、具体的な環境施策を審議しました。

#### 3 環境施策について

環境施策及び指標の目標値を決める際には、現在を起点に未来を考えるフォアキャストではなく、未来のあるべき姿を起点に考えるバックキャストの発想法が重要と思われれます。

なお、バックキャストでの目標と現状とのギャップについては、AI・IoT等によるイノベーションの活用により、時代の潮流に合わせた取組を今後検討する必要があると考えます。

#### 4 計画の推進、進行管理について

本計画の推進に当たっては、行政・市民・事業者の協働により推進を図ること、また、計画に掲げられた取組について、毎年度PDCAサイクルに基づく進行管理を実施し、適切な点検と評価を行い、状況に応じて見直しを行うことを要望します。

#### 5 本計画に対する市民の意見の反映について

計画策定に当たり、計画の周知と市民の意見の反映のため、計3回の市民懇談会と説明動画の配信が行われました。

本審議会において取りまとめた素案に基づき、令和2年(2020年)1月19日から令和2年(2020年)1月21日まで市民からの意見公募を実施した結果、13件の意見が寄せられました。寄せられた貴重な意見を踏まえ、素案について所要の修正を行いました。

最後に、市が本答申を踏まえ、速やかに越谷市環境管理計画の策定に取り組むとともに、庁内各部門が一体となって施策の具体化を図り、市民・事業者の理解と協働のもと、総合的かつ計画的に施策を進めることを期待します。

## 前回意見(抜粋)

委員：資料2の5ページの「国、埼玉県の目標に足並みを合わせるとの記載があり、主体性を持った取組が見えない」というご意見に対して、「早期の実質ゼロに向けた目標設定が可能かどうか判断する。」との記載があり、早期とはどのくらいの期間を想定し、何に基づいて可能と判断していくのか。

事務局：国が2050年ゼロカーボンという話をしているところで、自治体としてゼロカーボン宣言を早めにする必要があると思っており、宣言の意思表示は来年度中に行いたいと考えている。数字的にどうなののかについて、資料3の巻末資料の資料-2に市が実施した施策による削減見込量を掲載しているが、市の施策を全部足しても目標達成に至らず、国や企業の革新的な取組があって、ようやく達成することになる。対応方針(案)に記載している「早期の実質ゼロに向けた目標設定が可能かどうか判断する。」の記載はこのような背景を踏まえて修正させて頂く。ゼロに持っていくのは、かなり厳しいと思っているが、意思表示は、来年度を目標に進めていきたいと考えている。

# ゼロカーボンシティ共同宣言 4月26日



## 埼玉県東南部地域5市1町

(草加市、越谷市、八潮市、三郷市、吉川市、松伏町)

### 「ゼロカーボンシティ」共同宣言

～2050年 二酸化炭素排出実質ゼロを目指して～

近年、世界各地で猛暑や台風、集中豪雨など地球温暖化に起因するといわれている災害が頻発しており、人間社会や自然界にとって著しい脅威となっています。

2015年に合意されたパリ協定では「平均気温上昇の幅を2度未満とする」目標が国際的に広く共有されるとともに、2018年に公表されたIPCC（国連の気候変動に関する政府間パネル）の特別報告書においては、「気温上昇を2度よりリスクの低い1.5度に抑えるためには、2050年までにCO<sub>2</sub>の実質排出量をゼロにすることが必要」とされております。

こうした目標の達成に向け、環境省では、全国の自治体に「ゼロカーボンシティ」の表明を呼びかけており、2020年には、「2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにし、脱炭素社会の実現を目指す」との政府方針が示されました。

埼玉県東南部地域5市1町(草加市、越谷市、八潮市、三郷市、吉川市、松伏町)では、1965年から可燃ごみとし尿の共同処理を行うほか、これまで様々な分野における広域連携の取組を推進しており、2050年に向けて、これまでの経験と各自自治体の特性を活かした「ゼロカーボンシティ」の実現と圏域の活性化に繋がる取組が期待されています。

このことから、草加市、越谷市、八潮市、三郷市、吉川市、松伏町の5市1町は、国際社会の一員として、圏域内の住民や事業者等と協働し、将来にわたり持続可能な脱炭素社会の構築に向けて、「2050年二酸化炭素排出実質ゼロ」を目指すことを共同で宣言します。

令和3年(2021年)4月26日

草加市 市長

浅井 昌志

越谷市 市長

高橋 努

八潮市 市長

大山 忍

三郷市 市長

木津 雅晟

吉川市 市長

中野 浩一

松伏町 町長

鈴木 勝